

地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点
(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：大阪府立大学（総括責任者：奥野 武俊）

プロジェクトの概要

「地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点」構想は「地域の信頼」と「世界へ飛躍」の調和を人材育成に”をキャッチフレーズに掲げ、大阪府立大学の中核を担う人材を育成する。そのため、ナノ科学・材料で卓越した実績のある工学研究科電子・数物系や物質・化学系を中心とし、公立大学に適合したテニュアトラック制の原型モデル検証の拠点を構築する。十分な検討を経た後、工学研究科全体へと拡げ、将来は理系全研究科へテニュアトラック制を拡大・定着させる。本プロジェクトにより、ナノ科学・材料の分野で卓越した若手研究者を育て、地域の発展に寄与するだけでなく、国際的水準の学術的成果を一層増強し、世界的研究拠点を構築する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
S	s	s	s	s	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

プロジェクトの目的と手段、方法が明確に打ち出されており、テニュアトラック制（以下、「TT制」という）を活用した若手人材の養成システム改革が着実に実施されている。波及効果が期待できる TT 製の制度設計を作り上げ、養成されたテニュアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という）も非常に優れた業績を上げており、計画を上回る内容と成果が得られていることは高く評価できる。

- ・ **目標達成度**：公募、選考、業績評価のどの段階においても、厳格な基準作りを行い、その基準に基づいて行っているため、透明性が高く、公正で厳正な評価・審査が行われている。年次・中間評価及びテニュア審査では評価実施のためのガイドブックを作成し、評価の透明性を高めていることは、先端的な研究環境の整備と相俟って TT 若手の優れた業績にもつながっており、十分に目標を上回る成果を上げていると高く評価できる。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：公募・選考は、特徴ある「国際公募資格審査大綱」を作成し、透明性・公正性が高く厳正な審査が行われている。また、最先端研究設備群を共通インフラストラクチャーとして整備したことによって、毎年継続的に優秀な TT 若手の採用に成功し、さらに、女性 TT 若手の採用活動やライフイベントへの適切な対応などによって、TT 若手の高い業績につながっていることは高く評価できる。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：本プロジェクト発足時に新しく創設された全学部局である「21 世紀科学研究機構」内の独立した研究センターに TT 若手を集め、良好な研究環境を

提供しており、教育経験や学生指導の経験にも配慮がなされ、研究と教育の両面における人材育成が可能な制度設計となっている。また、多くの TT 若手が高い業績を上げて各種表彰を受けており、着実に養成効果が現れているものとして高く評価できる。

- **制度設計に対するマネジメント**：全体の制度設計、制度運用のマネジメントなど、学長の強いリーダーシップの下、活発な研究が展開され、機関として本制度の活用を図っていることは高く評価できる。また、海外と国内の TT 制について熟知している関係者を招き、詳細な評価項目を明示しての「外部評価」とその結果の公表もプロジェクト遂行のモデルとして評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：若手研究者養成への意欲は高く、全学組織として創設された「21 世紀科学研究機構」の中に、本プロジェクトの基盤となった「ナノ科学・材料研究センター」を自主経費で存続させ、TT 制を「高インセンティブ型」として定着させることを決めていることは高く評価できる。また、理系 3 部局では、後継プログラムのテニュアトラック普及・定着事業に選定され、学内では「普及型」として TT 制を既に実施しており、TT 制の全学展開を図り、さらなる発展を期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価でもすでに高い評価を得ており、学長のリーダーシップのもと、継続した取組が実施されており高く評価できる。